



CSR Report 2018

UDトラックス株式会社

CSR Report 2018

編集方針

UDトラックスは、持続可能な社会の実現に向けて、当社が果たすべきCSR(企業の社会的責任)に対する考え方や取り組みをステークホルダーの皆様にご理解いただくために、「CSRレポート」を発刊しています。本2018年度版は、新型トラック「クオン」とアフターサービスについての特集を設けるとともに、報告パートでは当社が重視する5つの活動テーマごとに取り組みを紹介しています。

報告対象範囲

UDトラックス株式会社を対象としていますが、一部項目では、UDトラックスブランドとしてボルボ・グループが展開している活動についても報告しています。

報告対象期間

2017年度(2017年1月1日~2017年12月31日)。ただし、一部、それ以前の経緯やデータ、2018年度の活動、将来の活動予定も報告しています。

発行年月

2018年11月

目次

トップメッセージ	02
UDトラックスについて	03
UDトラックスのCSR	05

特集1	07
-----	----

新大型トラックの発表・発売 お客様の事業に最適な1台を 選んでいただくために。



特集2	11
-----	----

現場品質の向上 製品だけではなく アフターサービスも“一歩先”へ。



CSR活動報告		
① お客様満足の向上をめざして		15
② ビジネスパートナーとの連携のために		20
③ 従業員の力を活かすために		21
④ 社会の一員として		23
⑤ 環境経営の推進に向けて		25
環境データ		29

ボルボ・グループについて	33
--------------	----

物流の未来を支える商品やソリューションを提供し、 豊かな社会の実現に貢献してまいります。

UDトラックスは1935年の創立以来、「時世の要求する自動車」を提供するという創業者のビジョンを事業の礎に、新たな製品・サービスならびにソリューションの創造に注力し続けてきました。

このビジョンを実現するためには、お客様をはじめとしたステークホルダーの皆様の声に幅広く耳を傾け、多種多様な経営・社会課題を解決しながら、そのプロセスを事業の成長に結び付け、利益を分かち合う「CSV(共有価値の創造)」の発想が不可欠です。

こうした認識のもと、UDトラックスは2017年、従来から実践してきたボルボ・グループのCSR方針と一貫性を確保しながら、事業戦略やブランド特性を踏まえた独自の「CSR戦略」を策定しました。この戦略のもと、コーポレート・ガバナンスやコンプライアンス、リスクマネジメントなどのCSR活動の基盤を強化すると同時に、「物流」に関わる「環境」「安全」「人」そして「地域社会のニーズ」を重点エリアとしたCSVを一層追求してまいります。

そのための取り組みとして2017年は、新大型トラック「クオン」の試乗会を全国で実施し、お客様に運転性能や燃費・環境性能、安全性の高さに直接触れていただきました。またこうした活動によって、お客様の経営課題や環境問題の解決に貢献する製品をご提案するとともに、当社の強みである生産性や稼働率の高さをお客様の現場で十分に発揮できるよう、整備拠点のリニューアルやアフターサービス力の向上に努めています。

さらに地域に根ざした企業であるために、事業所のある地域の子どもの対象とした交通安全教室や、高齢者を対象としたインターネット体験会などにも取り組んでいます。

世界では今、環境・社会・ガバナンスへの対応を示す「ESG」という新しい経営の物差しが注目を集めています。また、こうした取り組みを促すべく、国連では「持続可能な開発目標(SDGs)」が掲げられ、環境問題に関する国際枠組みである「パリ協定」も発効しました。このような国際社会の要請に応え、持続可能な社会をつくる一員となることは、グローバル企業として果たすべき責任であると同時に、日々の業務に対する誇りや未来へのモチベーションを高めることにも通じています。

そのような想いをすべての従業員と共有しながら「社会課題の解決をつうじて持続可能な物流を推進し、豊かな社会づくりに貢献する」というCSRビジョンの実現をめざしてまいります。

UDトラックス株式会社
代表取締役社長

酒巻 孝光



UDトラックスについて

物流を支えるトラックメーカーとして。

UDトラックスが創立されたのは1935年。以来83年間にわたり、商用車メーカーとして、社会の変化を見極め、先進技術を駆使し、お客様の声に耳を傾けながら、より良い製品づくりに邁進してきました。100年に一度といわれる自動車業界の変革、そしてトラックドライバー不足などの新たな課題。物流の効率化が一層求められる時代において、私たちは自らの存在意義を理解し、持続可能な社会の形成に貢献していくことが重要です。UDトラックスでは、企業としての「使命」とそれを全うする上で指針となる「バリュー」を従業員が共有し積極的に参画することで、持続可能な社会と物流の実現に貢献し、当社の長期的発展を図っていきます。

私たちの使命

UDトラックスは常に物流の一步先を見据え、稼働率、燃費・環境性能、運転性能、安全性、生産性において、時世の要求するトラックとサービスを提供し、豊かな社会づくりに貢献します。

私たちのバリュー

- | | |
|-----------------|-------------------------------------|
| 1. その一步先へ | お客様の成功のために、いかなる努力も惜しみません。 |
| 2. 終わりなき究極の信頼 | まわりを信頼することで、自らが信頼される存在になります。 |
| 3. 本質を見極め追求する | 結果を出すために最も重要なことに注力します。 |
| 4. 心を動かす先進性 | 世の中の変化を受け入れると同時に、私たちが変化することも恐れませんが。 |
| 5. 現場を重視し尊重する精神 | 情熱を持って業務に取り組みます。 |

会社概要

(2018年10月1日現在、従業員数を除く)

会社名	UDトラックス株式会社
創立	1935年12月1日
所在地	埼玉県上尾市大字壱丁目1番地
資本金	775億円
従業員数	6,210名(契約社員等および派遣社員を含む、2017年12月末日現在)
主な事業	国内事業 大型トラックの開発・生産・輸出・販売／中小型トラックの販売／自動車用部品の製造・販売／トラック・バスの整備・補修部品などの販売／ボルボブランド製品の輸入・販売 海外事業 海外ではボルボグループとして以下の事業を行っています。新興国向けの大・中・小型トラックの開発・生産・販売／新興国向けのバスの開発・生産・販売／自動車用部品の製造・販売／トラック・バスの整備・補修部品などの販売
国内グループ会社	VFSジャパン株式会社、株式会社ニューメック
海外主要拠点	シンガポールオフィス、タイ工場、部品センター(シンガポール、ドバイ、南アフリカ、アメリカ)

役員

代表取締役会長
ヨアキム・ローゼンバーク



取締役(非常勤)
セスチン・レナード



代表取締役社長
酒巻 孝光



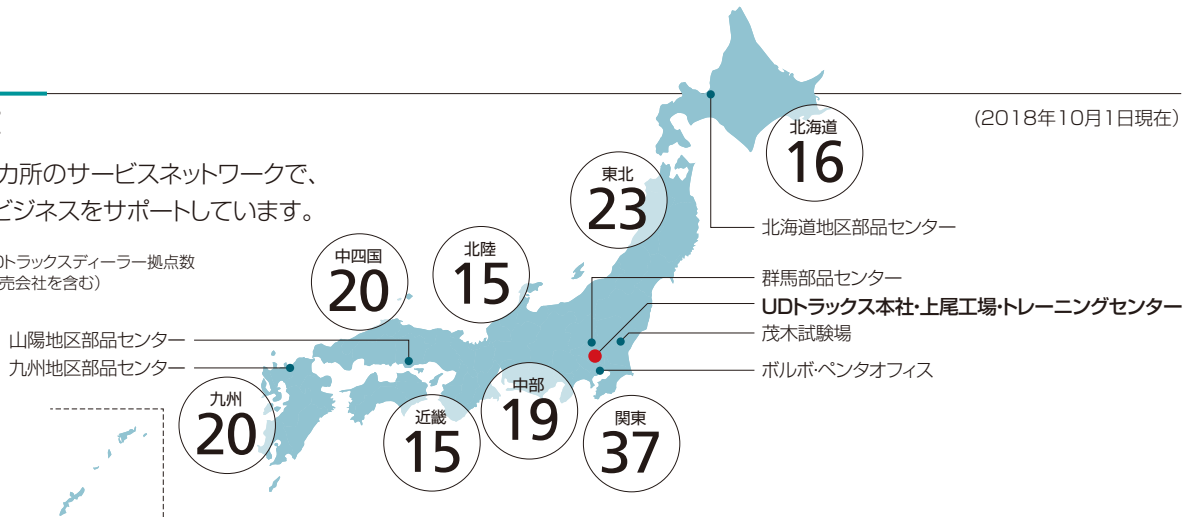
監査役
藤井 範彰



国内拠点

全国165カ所のサービスネットワークで、お客様のビジネスをサポートしています。

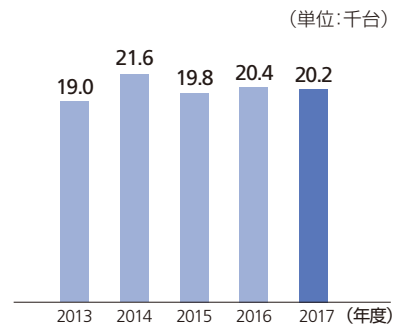
○各地域のUDトラックスディーラー拠点数
(独立資本販売会社を含む)



沿革

年	会社のあゆみ	製品のあゆみ
1935	ディーゼルエンジン製造を目的とし、埼玉県川口市に日本ディーゼル工業(株)を創立	
1938		当社初のディーゼルエンジン完成
1939		ディーゼルトラック1号車が完成 全行程3,000kmの試験走行を実施
1942	鐘淵ディーゼル工業(株)に社名変更	
1946	民生産業(株)に社名変更	
1950	民生ディーゼル工業(株)に社名変更	
1955		オリジナルの「UDエンジン」誕生
1958		日本初積載量10トン超え「6TW型」誕生 新幹線の敷設などで活躍
1960	日産ディーゼル工業(株)に社名変更	
1962	上尾工場の操業開始	
1975		中型トラック「コンドル」誕生
1990		低排出、快適・安全性を向上させた「ビッグサム」誕生
2004		フラッグシップ大型トラック「クオン」誕生
2006	ボルボ社が資本参加	
2010	UDトラックス(株)に社名変更	
2013		新興国市場向け大型トラック「クエスター」誕生
2014	販売会社UDトラックスジャパン(株)を合併	小型トラック「カゼット」誕生
2015	創立80周年を迎える	
2017		新型「クオン」発売、新興国向け中型トラック「クローナー」、小型トラック「クーザー」誕生

世界販売台数推移



市場別販売台数

(2017年度、工場出荷ベース 単位:台)

中南米	168
アジア	16,494
日本	10,979
東南アジア	4,398
南アジア	178
中東	939
オセアニア	1,202
アフリカ	2,354
合計	20,218

取り扱い製品



UDトラックス

大型トラック「クオン」、中型トラック「コンドル」、小型トラック「カゼット」および新興国向け大型トラック「クエスター」、中型トラック「クローナー」、小型トラック「クーザー」を展開。



ボルボトラック

ボルボブランドの大型トラックの輸入・販売。日本市場における主な製品は、ボルボFH4×2、6×4トラクター。



ボルボペンタ

ボルボペンタブランドの船舶、産業用エンジンの輸入・販売。日本市場における主な製品はインボードおよびIPSマリンエンジン、発電機用エンジン。



ボルボ建設機械

ボルボブランドの建設機械の輸入・販売。日本市場における主な製品はホイールローダ、アーティキュレートダンプトラック。

ステークホルダーとの、 共有価値の創造をめざした活動を推進。

CSR戦略

UDトラックスでは、当社として取り組むべきCSRの方向性を定め、ブレのない活動を展開するために、独自のCSR戦略を策定しました。

このCSR戦略では、CSRでめざすべき姿をCSRビジョンとして定めています。また、CSRのなかでも、とくに、社会課題の解決への取り組みを通じてステークホルダーと当社の双方に価値を生み出し、持続可能な社会をめざすCSV(Creating Shared Value=共有価値の創造)の領域に注力することを明確にしました。

CSVの推進においては、当社の事業に密接な関係がある「物流」「地域社会」にフォーカスすることによって、当社のもつ知見や専門性、人材や施設といった経営資源を社会に還元することをめざしています。さらに「物流」では、「環

境」「安全」「人」という3つの重点エリアを定めることで、より具体的で実効性のある活動につなげていきます。

同時に、すべての事業活動のなかで必ず実行すべきCSRを「基本的CSR」と定義し、コーポレートガバナンスやコンプライアンスの強化、ボルボ・グループの行動規範や主要方針、ISOなどに基づく取り組みなどを推進していきます。

CSR戦略は、ボルボ・グループのCSR方針と一貫性を保ちながら、当社の事業戦略やブランド特性を加味したものとなっており、グループのめざす個々のブランドの強化によるシナジー効果の創出にも合致したものです。UDトラックスは、CSRのさまざまな取り組みに従業員の参画を促しながら企業としての社会的責任を果たし、持続可能な社会の実現に貢献していきます。



ボルボ・グループ行動規範

ボルボ・グループでは、倫理的で法令を遵守したビジネスの遂行のために、世界中のすべての従業員が履行すべき基本原則や行動を「行動規範」に定めています。2017年に全面改定を実施し、従来以上にコンプライアンスを強化するとともに、従業員の行動との関連性も具体的に示し、一人ひとりに実践を促しています。また、社内への浸透のために、新しいe-ラーニングも開発・実施しました。



e-ラーニングの画面(上)
ボルボ・グループ行動規範表紙(左)

CSRマネジメント体制

CSR・環境マネジメント担当が中心となり、CSRを推進しています。社内のさまざまな部門で取り組んでいるCSR活動に関する情報の集約やコーディネーションのほか、広報やブランドマネジメント担当と協力してコアチームを構成し、CSR戦略の策定など会社全体のCSRの枠組みや社内外への認知向上などについて検討しています。

また、全社で方向性の一致した活動を展開していくために、海外の拠点を含む各部門でCSR担当者を選任し、定例会議のなかで組織横断的な情報の共有や具体的な活動の企画・検討を行っています。さらに、経営会議において取り組みの進捗を報告し、経営層の指示・判断、承認を受けています。



コンプライアンス

「ボルボ・グループ行動規範」に定められた「お互いを尊重する」「公正かつ合法的にビジネスを獲得する」「事業活動と個人的な利害を切り分ける」「企業情報と資産を保護する」「透明性、そして責任感をもってやり取りを行う」という5つの重要な原則に則った事業活動に努めています。

これらの原則のなかには、競争法、贈収賄防止法、労働基準法など各種労働関連法規をはじめ、国内外の法規およ

び関連するボルボ・グループの内規を遵守した事業活動に努めることが明確にされており、集合研修やe-ラーニングなど必要な形でのコンプライアンス教育を経営幹部を含む従業員に対して継続的に実施しています。また、コンプライアンス違反のおそれがある状況に適時かつ適切に対応できるよう、内部通報制度や監査体制を社内に整備しています。

リスクマネジメント

2017年12月、リスクマネジメントの強化のために、セキュリティ管理部署を新設しました。

同部門の主な責務は、従業員およびビジターを対象とした職場の安全の確保や、事業に関する秘匿情報や資産の保

護、緊急事態への対応、クライシスマネジメントおよび事業継続計画の策定、災害復旧の支援など多岐にわたります。

起こりうるリスクを想定し、未然に防ぐことによって、より安心・安全な事業環境の実現に取り組んでいます。

情報セキュリティ

ボルボ・グループの「セキュリティポリシー」に基づき情報セキュリティの確保に努めています。またこのポリシーを反映した情報セキュリティガバナンスの構築を進めています。

具体的には、災害によるシステム停止を防止するために、本社と耐震性の高いデータセンターの2拠点で電子情報を運用・管理するとともに、外部攻撃などによる電子情報

の漏洩防止対策を強化しています。また、全国のディーラーを対象に情報セキュリティの強化に向けた教育を定期的に行っています。

これらとともに、UDトラックスはボルボ・グループの「プライバシーポリシー」に従い、個人情報の適正な管理・保護を徹底しています。

特集 1

新大型トラックの発表・発売

お客様の事業に
最適な1台を
選んでいただくために。



新型「クオン」の特長を紹介する 試乗会の開催

2017年4月、UDトラックスは、新大型トラック「クオン」を販売開始しました。これに合わせて、お客様にいち早く新製品の性能を実際に確認し、ビジネスソリューションとしてご活用いただくために、同年4月から全国のサーキットで試乗会をスタートしました。

試乗会の開催にあたっては、ドライバーの実際のニーズに沿ったさまざまな運転環境を再現するため、当社のスタッフがあらかじめコースの特徴や走行時のポイントなどを確認。それぞれの状況に即した地点で、お客様に、省燃費走行における各種機能や新採用のディスクブレーキのブレーキフィーリング、下り坂での補助ブレーキの効きや急な上り勾配での坂道発進、さらには倉庫でのピットづけをイメージした微速後退など、多岐にわたる走行性能、運転・操作性を体験していただきました。また、会場内には「運転性能」「燃費・環境性能」「安全性」「生産性」「稼働率」といった5つの要素ごとに紹介ブースを設け、開発やサービス部門の従業員が技術や整備に関わる質問にもその場でお答えしました。

参加したお客様からは、「エンジンがパワフル、登坂路でも積荷の重さ※を気にせず走ることができる」「変速が非常にスムーズ、ディスクブレーキのフィーリングも良い」など、好意的なコメントが多数寄せられ、試乗会後に実施したアンケートでは、11の評価項目において平均4.3点以上(5点満点)の高い評価をいただくことができました。

2017年は、サーキットでの全国試乗会に加え地域ごとのデモ車試乗会や展示会などを通じて、合わせて1万名以上のお客様に新型「クオン」に触れていただくことができました。今後も同様の取り組みを継続し、一人でも多くのお客様に新型「クオン」を体感し、ベストな1台を見つけていただきたいと思います。

※トレーラー、カーゴともに、試乗車にはダミーウェイトを積載。



富士スピードウェイ(静岡県)

4月開催。国内有数のサーキットの特性を活かし、8つの体感ポイントを設定。北海道から九州まで広域にわたるお客様にご参加いただきました。



岡山国際サーキット(岡山県)

5月開催。中国、四国および近畿地域のお客様にご参加いただきました。



スポーツランドSUGO(宮城県)

6月と7月に開催。主に関東と東北地域のお客様にご参加いただきました。

進化を遂げた 新型「クオン」の 発表

UDトラックスが2017年4月に発表した新大型トラック「クオン」は、クラス最高レベルの燃費・環境性能を備え、最新の排出ガス規制(平成28年規制)に適合。電子制御式オートマチックトランスミッション「エスコット・シックス」やトラフィックアイブレーキ(衝突被害軽減ブレーキ)など、各種の先進技術を採用し、運転性能や安全性も向上させています。

同時に、車両全体の軽量化や架装性を見直しを行い、「パーフェクトクオン」では最大200kgの積載性の向上を実現しました。

さらに、10月には新型「クオン」セミトラクター※を追加し、大・中・小型トラックのフルラインアップを完成。トラック輸送業界のお客様に豊富な選択肢を提供しています。

※ 荷台(トレーラー)を連結して牽引するタイプのトラック。

“一歩先”を行く「クオン」の 先進技術

新型「クオン」は、「人を想い、先を駆ける。」をコンセプトに、トラックに求められる5つの要素——運転性能、燃費・環境性能、安全性、生産性、稼働率のすべてにおいて、“一歩先”を行く格段の進化を遂げています。UDトラックスでは、こうした「クオン」の特長を紹介する機会を積極的に設け、その普及を図ることで、トラック輸送業界における持続可能性の実現に貢献しています。

「クオン」の特長



運転性能

使い心地を追求したコックピット、操作性が進化した電子制御式オートマチックトランスミッション「エスコット・シックス」、全車に設定したディスクブレーキなどで、快適で運転に集中できる運転環境を提供しています。



燃費・環境性能

省燃費・パワフル・クリーンを実現する「GH11エンジン」は、低回転域から幅広い回転域で力強いトルクを発生。GPSを駆使した先読み機能「フォアトラック」や、省燃費運転アドバイス機能「燃費コーチ」といった先進の省燃費運転サポート機能も搭載しています。



安全性

トラフィックアイブレーキ(衝突被害軽減ブレーキ)やドライパーアラートサポート(ふらつき注意喚起装置)をはじめ、数々の先進システムを組み合わせ、安全運転をサポートしています。



生産性

積載性を向上するとともに、荷役性の向上や架装効率も追求。「パーフェクトクオン」ではドライウイングのバリエーションを拡大したほか、直結冷凍冷蔵車を設定しています。



稼働率

車両の信頼性と耐久性をさらに向上するとともに、定期交換部品の削減や純正部品のロングインターバル化など、メンテナンス性も追求。整備や整備契約、テレマティクスサービスなどを含む包括的なアフターサービスにより、車両を最良の状態で維持します。

グローバルで お客様のニーズに 応えるトラックを展開

UDトラックスでは、2017年、国内外で大型、中型、小型トラックのフルラインアップを完了しました。日本では大型トラック「クオン」をはじめ、中型トラック「コンドル」、小型トラック「カゼット」を、また、タイやインドネシア、中東などの新興国市場においては、大型トラック「クエスター」、中型トラック「クローナー」、小型トラック「クーザー」を発表。それぞれの市場のインフラや貨物特性に応じた物流ニーズに幅広く対応しています。



お客様から

ディスクブレーキの性能で、「クオン」の印象がさらにアップ。

当社では従来型の「クオン」が活躍中ですが、新型「クオン」の一番のインパクトは、やはり今回新たに装備されたディスクブレーキでしょうね。スピードが乗った第1コーナーの手前でガソンとペダルを踏んでみたのですが、ドラムブレーキのような「カクッ」とした感覚が一切なく、これだけでも「クオン」の良いイメージがさらに強くなったと感じます。また、エスコット・シックスについても、雪道の走行性能の向上に大きな期待を寄せています。



丸周運送株式会社
代表取締役社長
椎谷 周平様

登り坂でもトレーラーの重量を感じさせない。

「クオン」の単車はすでに2台納車されていますが、当社はコンテナ輸送にトラクターを使用しますので、今回の試乗を楽しみにして来ました。やはり一番際立つのは、登り坂でもトレーラーの重さを感じさせずストレスがないことで、これはエスコット・シックスとパワフルなGH11エンジンによるところが大きいと感じました。ディスクブレーキの効き方やフィーリングも良く、安全・安心な運行に大きく貢献すると期待しています。



大丸運輸株式会社
代表取締役
石田 雅嗣様

社員から

すべてのスタッフが想いを一つにして、「クオン」に触れていただく機会を提供。



国内車両営業本部
プロモーション&セールス
シニアマネージャー **岡部 秀敏**〈写真右〉 **斉藤 裕子**〈写真左〉

私たちは、本車で車両販売の後方支援として、お客様向けイベントの企画・実施や機関誌の発行などを担当しています。

試乗会の立案にあたって重視したのは、新型「クオン」が、いかにお客様の課題やニーズに応えることができる車両かを実感していただくことでした。そのために、各支社の販売促進担当者にも企画の段階から参加してもらい、各地域・現場との調整や情報収集、そして参

加されるお客様の地域性に寄り添ったプログラムになるよう、毎回、改善につながる見直しを行ってまいりました。

同時に、スタッフの教育にも気を配りました。会場の安全を確保し、良い雰囲気をつくり、お客様にご満足いただけるかどうかは、運営スタッフ次第です。新型「クオン」のコンセプトには「人を想い」という言葉があります。スタッフには「お客様を想って、一人ひとりが責任を果たしましょう」と声をかけ、全員が同じ気持ちで試乗会に臨めるように心がけました。

富士スピードウェイの本コースは、大型トラックが走行した実績がなく、私たちにとっては最大のチャレンジでした。「クオンで富士スピードウェイを走れますか？」というところから始まり、当日までの準備は未知のことばかり。しかし、サーキットでの走行を特別な機会として楽しみながら参加して下さっているお客様の姿を拝見し、満足されたとの声をいただくと、大きな達成感があります。

試乗会は、今後も主要な取り組みの一つとして開催する計画です。お客様に実際に車両に触れてご自身で確認していただくと同時に、UDトラックスそのものについても知っていただく機会にもなれば、とても嬉しく思います。

特集 2

現場品質の向上

製品だけではなく
アフターサービスも
“一歩先”へ。

整備拠点における サービス 品質の向上

UDトラックスでは、製品の性能や品質の向上を図るのはもちろん、販売後もお客様に製品を常に最適な状態でご利用いただけるよう、アフターサービスの拡充に取り組んでいます。アフターマーケット部門や販売部門が連携し、整備拠点であるカスタマーセンター(CC)における業務のレベルアップに注力するとともに、施設のリニューアルも進めています。

次ご購入いただけるかは、アフターサービスの品質にかかっている——UDトラックスは、こうした認識のもとに“一歩先”を行くアフターサービスの提供に努め、お客様満足の上をめざしています。

「スタープログラム」の推進

UDトラックスでは、業務改善を計画的に進め、お客様により良いサービスを提供するために、アフターサービスレベルを、3段階(★ワンスター、★★ツースター、★★★スリースター)で向上していく「スタープログラム」を全国のカスタマーセンターに展開しています。基本的な業務水準を確立するワンスター活動は、作業に対するメカニックの正確なタイムレコーディング、精度の高い見積書の作成とお客様との合意、請求書発行までの日数短縮、顧客満足度調査の実施など、全18の主となる活動に対して50以上の評価項目を設定して、日々の業務を行っています。また、ワンスターの認定は専任の担当者の社内監査によって、各活動が評価基準に適合しているかを詳細に確認して判断しています。さらに認定後も定期的な社内監査を実施し、レベルの維持に努めています。現在、ほとんどすべてのカスタマーセンターがワンスターを取得し、ツースターをめざしています。

このプログラムは、自社直系ディーラーだけでなく独立資本の販売会社の整備拠点へも展開を始めています。明確な基準を定め進捗度合いを可視化することによって、メカニックをはじめ、アフターサービスに関わるすべてのスタッフの業務に対する意欲向上にもつながっています。



ワンスター認定証の授与



社内監査(ヒアリング)



社内監査(整備工場)



「スタープログラム」の概要

ワンスター



業務の現状とお客様のニーズを把握して、基礎となる活動を実施している。

ツースター



お客様ニーズや収益向上の観点から、業務改善のアクションプランを策定・実行している。

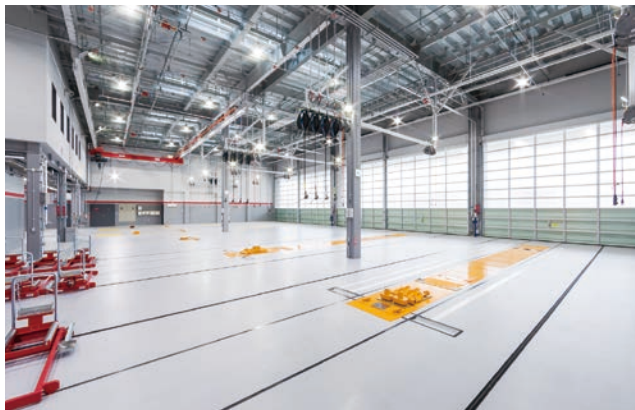
スリースター



各分野においてベストプラクティスとなる活動を実施している。

カスタマーセンターを リニューアル

お客様満足の上をめざす取り組みの一環として、2014年からカスタマーセンター(CC)のリニューアルを進めています。(1)お客様への心地よさの提供と統一的なブランドイメージの訴求、(2)整備工場の生産性向上、(3)従業員の職場環境の改善をコンセプトに、2018年4月時点で14拠点のリニューアルを完了しました。



整備工場

従来の照明に比べ約4倍明るいLED照明や、採光式の屋根、また、フロアーリフト、キャタピラリフト、リールでのオイル供給などにより、作業効率を向上。環境やメカニックの負荷軽減にも配慮しています。



お客様待合室

落ち着いた室内には空調が行き届き、整備を待っている間もゆっくりとくつろいでいただけます。女性専用の待合室も用意。CCによってはシャワールームを完備しています。



従業員用設備

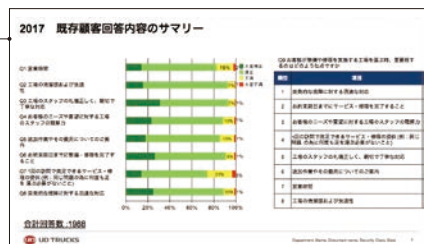
清潔で明るい休憩室は、食事やミーティングなど従業員同士のコミュニケーションの場として活用。ロッカールームや大浴場などの設備も充実しています。

顧客満足度調査の 結果を踏まえ カスタマーセンターの 業務改善を推進

アフターマーケット部門では、スタープログラムの活動項目の一つとして、UDトラックスの車両を保有するお客様を対象に、カスタマーセンターに対する評価と、整備工場を選ぶ際に重視する項目についての調査を行っています。結果は、カスタマーセンターの業務改善のためのアクションプランに反映しています。

2017年調査の概要

- 対象：UDトラックスの車両を保有し、入庫や部品の取り引きのあるお客様
- 調査地域：全国
- 調査方法：ウェブ調査
- 調査結果集約期間：2017年1月～12月
- 有効回答数：1,988件





新しい施設をフルに活用して、お客様と従業員の満足度を向上。

入庫台数が増加するなか設備面の課題が顕在化

厚木カスタマーセンター(CC)のある地域は、東名高速や圏央道、小田原厚木道路が通る交通の要衝であることに加え、圏央道や新東名高速の延伸に伴って物流施設の建設などが活発化しています。ユーザーは、当CCから車で1時間程度のエリアに事業拠点を置くお客様が多い一方で、高速道路を通過する県外からのお客様にもご利用いただいております。現在1日に約40台～50台の入庫台数は増加傾向にあります。

厚木CCの歴史は古く、1965年に開設されました。当時に比べると車両が大型化しているため、近年新設するCCの敷地面積は3,000坪程度あるのに対して、当CCは約2,000坪と限られています。また、開設から50年以上が経過していたこともあり、省力化設備や環境設備が整っていない、整備工場は天井が低くて暗いなど、さまざまな課題を抱えていました。そこで、こうした状況を改善すべく、約3年をかけてリニューアル計画を進めてきました。

お客様・従業員双方にとって 使いやすい施設にリニューアル

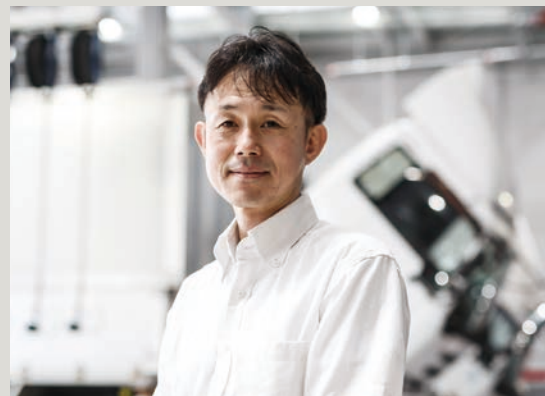
リニューアルにあたっては、当CCに所属する約40名の従業員と「お客様・従業員双方にとって使いやすい施設にするためには、どうすればいいか」を徹底的に話し合うとともに、東北から九州まで先行してリニューアルしたCCを見学し、導入設備やその配置、動線設計などを研究してきました。そして、「工場設備」「労働環境」「企業イメージ」の観点から基本構想をまとめて本社の関係部門と協議を重ね、2017年6月にリニューアルオープンしました。

今回のリニューアルによる最も大きな成果は、作業

効率が向上し、より多くのお客様に対応できるようになったことです。リフトやクレーン、ホイールドローリー、オイルの供給・排出システムといった設備を導入・一新したほか、限られたスペースを有効に活用しつつ、従業員がスムーズに動けるよう施設全体のレイアウトも工夫しました。さらに、リニューアルを機に、各従業員の作業予定や作業ベイの空き状況を詳細に可視化し、入庫予定と適切にマッチングすることで、作業時間や待ち時間を短縮しています。フロントや待合室を一新したことも高評価につながっており、入庫台数は改装前に比べ115%、ピーク時では130%程度まで増加しています。

また、従業員の業務に対する姿勢も大きく変化しました。自らの働き方を見直す、率先して5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)に取り組むといった変化も見られ、従業員を対象とした意識調査では「やる気」を測る指標がリニューアル後は10ポイント以上向上しています。

現在、当CCはスタープログラムで「ツースター」をめざしています。サービスレベルや作業効率の向上、作業環境の改善を追求し、お客様と従業員のさらなる満足度向上に取り組んでまいります。



厚木カスタマーセンター長 大坪 信幸

お客様満足の上をめざして



お客様満足の上をめざすために、UDトラックスではお客様や社会の潜在的なニーズの把握に努め商品に反映するとともに、さまざまな活動を通じてお客様の課題解決に取り組んでいます。

お客様満足の上をめざす基本的な考え方

お客様や社会のニーズに応える製品やサービスを提供

UDトラックスは、創業者である安達堅造の「時代の要求する自動車」を提供する、という言葉が事業の礎としています。

そのために、現在だけでなく将来までを見越してお客様や社会の課題を理解し、常にニーズに応える製品やサービスの提供に努めています。耐久性と信頼性に優れた高品質な製品の導入、社会の要請に応える先進的な安全技術の採用、そして製品を実際に使用されるお客様へのサポートなどを通じて、お客様満足の上をめざしています。

品質の確保・向上

品質マネジメント方針

すべての事業活動で品質を追求

優れた品質を備えた製品・サービスによってお客様に高い満足度を提供し続けることは、製造業としての社会的責任の一つです。UDトラックスでは、「お客様重視」から始まるボルボ・グループの品質方針に則り、開発から生産、販売、アフターマーケットに至るすべての事業活動で、品質の確保・向上に取り組んでいます。

品質マネジメントシステム

ISO9001 認証を取得

UDトラックスでは品質マネジメントシステムの国際的な認証であるISO9001を導入しています。生産部門では2002年度に、開発部門では2016年度にISO9001を取得しました。

PDCA(Plan 計画→Do 実行→Check 評価→Act 改善)のサイクルを回していくことで、継続的に改善を進め、品質の上をめざしています。

主な取り組み

部門横断

品質問題への迅速な対応に向けて新組織を発足

UDトラックスでは、品質問題発生時におけるお客様への影響を最小限にするために、問題の特定から対策の実行までを迅速かつ正確に行う部門横断の「クオリティ・アクション・グループ」を2017年度に発足しました。

開発、生産、アフターマーケットの各部門で構成するこの組織は、本社で日々の品質情報を確認して対策を講じるチーム、カスタマーセンターやお客様にも出向く技術専門チーム、支社に常駐して現地で直接対応にあたるチームと役割を分担しながら、機能的にかつ途切れのない対応ができるように連携しています。従来、各部門が担当していた取り組みを部門横断的に行うことで、関係者全員で品質情報をタイムリーに共有するとともに、スムーズな対応につなげ、お客様満足度の上をめざしています。

開発部門

グループ共通プロセスで品質を管理

開発部門では、ボルボ・グループ内での横断的なプロジェクトによる製品開発においても高い品質を確保するために、UDトラックス独自の評価基準をもちこみながらボルボ・グループ共通のプロセスを取り入れています。そして、開発段階ごとにチェックポイントを設定し、性能・機能・耐久信頼性など各品質項目の目標達成状況を確認しています。このプロセスの導入により、品質の上をめざすと同時に開発期間の短縮も実現しました。

生産部門

UDトラックス独自の品質管理手法で品質を上をめざす

生産部門では、UDトラックス独自の管理手法を導入し、定められたプロセスに従って部品のデリバリーや製造過程での生産・品質不具合を日々確認しながら、目標とする品質

レベルの達成に向けた活動をしています。より一層の改善を求めたUDトラックスの品質管理手法は、ボルボ・グループ内の各工場でも採用されています。

また、従業員の品質意識向上のため、毎年11月を「品質月間」と定め、部署ごとに工程の再確認、過去の不具合対策の実施状況などを確認し、さらなる技術レベルの改善を進めています。

アフターマーケット部門

アフターマーケット品質の向上に向けた多彩な取り組みを実施

お客様に日々安心してトラックを使用していただけるように、UDトラックスは整備スタッフのスキルアップを柱にアフターマーケット品質の確保・向上に努めています。

各支社における整備品質向上の取り組み

アフターマーケットのスタッフを対象にした研修会や世界規模の技術向上イベントなどを通じて、整備品質の向上に取り組んでいます。2017年は、こうした取り組みをさらに進め、地域によって異なるお客様の特性やニーズを踏まえて、よりきめ細かなサービスを提供できるよう、各支社でメカニックを対象としたさまざまな技能コンテストを開催しました。

東北支社では、全体的な技能の向上を目的に、管轄するカスタマーセンターのメカニック全員参加のサービスコンテストを実施しました。学科予選を勝ち抜いた代表者が11月に支社で行われた決勝戦に臨み、国家整備士資格や車両知識の学科試験と、車両の故障診断や単体ユニット整備に関する実技問題で競いました。

また、九州支社では、若年層の育成を主眼に、入社3年以内かつ30歳未満の若手メカニックを対象としたフレッシュマンコンテストを実施しました。

こうした取り組みは、メカニック個人の技能だけでなく、業務に対するモチベーションやチームワークも高めています。

お客様の稼働率向上を目的とした研修会

アフターマーケット部門では、2013年以降毎年、最新の製品品質と技術サポート案件を共有し、メカニックの知識を強化する研修会を開催しています。2016年からは、研修会の名称を「アップタイム・カンファレンス」として、お客様の車両の稼働率向上をとくに意識して取り組んでいます。

2017年は、12月に東京で開催し、全国166(当時)のディーラー拠点からメカニックとパーツ担当者など約350名が参加しました。カンファレンスでは、エンジンや車両などに関わるサービス技術の講義や、ロードサポートの改善についてのセッション、パーツ供給の迅速化に向けたワークショップ、上尾工場での車両生産ラインの見学などを行いました。さらに現場でお客様と接するメカニックとパーツ担当者が果たすべき役割についても活発に議論し、お客様の稼働率向上という目標を再確認しながら知識を深める機会になりました。



世界規模のアフターマーケット技能向上イベント

ボルボトラックおよびバスのアフターマーケットに携わる従業員の技能向上を目的とした世界最大規模の技能競技会「VISTA(ビスタ)2017-2018」に、日本から93チーム338名がエントリーしました。

競技は2~4名からなるチーム対抗で、学科競技による予選、地域ごとのセミファイナルを勝ち進んだ40チームが、2018年7月にブラジルのクリティバで開催されるワールドファイナルへ進みました。数カ月わたってチームメンバーとともにさまざまな課題に取り組むことで、知識や技術を相

互に高め合うと同時に、チームワークの強化やチャレンジ意欲の向上にもつながっています。

また、UDトラックスでも、2014年から技能コンテスト「UDトラックス現場チャレンジ」を開催しています。前回の2016年大会には、世界各地から289チームが参加し、11チームが本社で行われた最終戦に臨みました。優勝はインドネシアチーム。日本からは4チームが進出し、最上位のチームは2位という好成績を残しました。



製品の品質に関する情報開示

速やかな情報開示を徹底

お客様の安全や環境に影響を及ぼす不具合が発生した場合には、国土交通省のガイドラインに基づき、速やかに情報を開示しています。

新型「クオン」の主な安全装備

アクティブセーフティ 危険を予測し、ドライバーをサポート

● トラフィックアイブレーキ(衝突被害軽減ブレーキ)

ミリ波レーダーとカメラによる二重の監視機能により、前方車両の検知性能を大幅に向上しました。衝突リスクを検知すると、ドライバーに注意を喚起。衝突する可能性のある距離に車両が近づくと、同時にブレーキが自動で作動して衝突を回避、または被害を軽減します。2019年11月施行の衝突被害軽減ブレーキの性能要件強化(AEBS01シリーズ)に先行して採用。



● LDWS(車線逸脱警報装置)

車載カメラが左右の走行車線を検知し、車速60km/h以上で走行中にドライバーが意図せず走行車線から逸脱すると、警告灯とブザーで注意を促します。

届出件数(各年1~12月)

	2015年		2016年		2017年	
	UDトラックス	ボルボトラック	UDトラックス	ボルボトラック	UDトラックス	ボルボトラック
リコール	4件	2件	4件	3件	6件	1件
改善対策	0件	1件	0件	2件	0件	1件
サービスキャンペーン	1件	1件	4件	6件	5件	3件

製品における安全性の向上

安全マネジメント方針

安全な輸送ソリューションを提供するリーディングカンパニーをめざして

UDトラックスでは、自社製品に起因する事故をゼロにする、というボルボグループの安全方針に則り、安全性向上の継続的な取り組みを行っています。お客様の製品の使用方法に関する知見を深め、安全性に関して起こりうる問題を体系的に検証しながら製品やサービスを開発しています。また、お客様や対象市場のニーズ、交通インフラなどに適した安全機能を備えた製品・サービスの提供に努めています。

ベーシックセーフティ 運転時の疲労軽減に貢献し、安全運行を支援

● ディスクブレーキ

貨物積載時の長い下り坂や、雨天時にも、安定した制動力を発揮します。

● EBS(電子制御ブレーキシステム)

ディスクブレーキ、ABS(アンチロックブレーキシステム)、ASR(アンチスリップレギュレーション)の組み合わせにより、挙動を安定させます。

パッシブセーフティ 被害を最小限に抑える

● SAFES CABIN(セーフティ キャビン)

安全装備を組み込んだ高剛性キャブ(SAFES CABIN)により、万一の衝突の場合でもドライバーの安全性を向上。また、乗用車のドライバーの被害を軽減するためのFUPD/RUPD(車両前後部への突入防止システム)も装備しています。

主な取り組み

安全技術の開発・活用

先進安全技術を導入

社会やお客様の安全性に対するニーズの高まりに応えるために、先進的な安全技術の開発と普及に取り組んでいます。

2017年4月に発表した大型トラック「クオン」には、ベーシックセーフティ、アクティブセーフティ、パッシブセーフティという3段階からなる安全システムを搭載しました。UDトラックスでは、ドライバーの安全運転をサポートすることに加えて、周囲の道路利用者の安全性も同時に確保することをめざしています。

安全運転講習会

お客様のニーズに沿った実践的なプログラムを提供

トラックをより安全に運行していただくために、「安全運転講習会」を開催しています。

お客様の要望に応じて、「運輸安全マネジメント」「飲酒運転の危険性」「トラックの死角」「事故事例と防止策」「危険回避」「ヒューマンエラー」などのなかからテーマを選定し、学んだ知識をすぐに実践できるよう、座学と実技を組み合わせたプログラムを提供しています。

講習会で用いるツールについても、効果を最大化するために、実際の事故車両に取り付けられていたドライブレコーダーで撮影された映像を使って、お客様に事故を疑似体験していただくなど、自分自身のこととして捉えられるよう工夫しています。

2017年は137回(2016年127回)実施し、3,668名(同3,415名)のお客様にご参加いただきました。

受講後にはアンケートを実施して講習会の内容や資料、講師、時間配分などについての評価を聞き、プログラムや資料の改善に役立てています。

お客様サポート

お客様サポートに対する基本的な考え方

課題解決につながるサポートでお客様のビジネスに貢献

UDトラックスは、お客様のビジネスパートナーとして選ばれるために、商品の提供だけでなく、お客様が直面する課題を解決し、お客様の収益や事業運営に貢献できる活動に取り組んでいます。

主な取り組み

女性ドライバー向け試乗会

「トラガール促進プロジェクト」をサポート

トラックドライバーの不足が社会的な課題となるなか、国土交通省はトラックドライバーをめざす女性を応援する「トラガール促進プロジェクト」を展開しています。

その一環として、UDトラックスでは、2017年9月に本社敷地内のUDエクスペリエンス・センターに女性ドライバー8名を招き、新型クオンの試乗会と意見交換会を実施しました。参加した皆さんからは、新型クオンの運転性能などに対して高い評価をいただく一方、「ステップの間隔を短くした方がいい」「収納を増やして欲しい」といったご意見もいただきました。また、意見交換会では、女性が働きやすい環境とその実現に向けた課題や、女性ドライバーならではのヒヤリハットと安全運転のポイントなどをテーマに、それぞれの体験も踏まえて活発に意見や情報が交わされました。



この取り組みは、全体数の少ない女性ドライバー同士が交流できる貴重な場ともなり、2回目に向けた期待の声も上がりました。今後も物流業界が抱えるさまざまな課題の解決を支援すべく、お客様の視点に立った活動を継続していきます。

エコドライブ講習会

燃費向上とCO₂排出量の削減を支援

2007年から、ドライバーを対象に「エコドライブ講習会」を開催しています。講習会では、実際のトラックを使った運転操作や減速運転などの実技を通じて、省燃費運転につながる知識と技術の習得をめざしています。とくに、UDインフォメーションサービス(UDIS)[※]を活用した講習会では、ギアチェンジや車速などの項目ごとに運転の評価ができるため、客観的にドライバーの運転の癖を把握し、効果的な対策ができると好評をいただいています。

2017年は全国85カ所(2016年97カ所)で開催し、1,213名(同1,303名)のお客様に参加していただきました。受講後は燃費が平均で14.9%向上したとのデータが得られており、お客様の燃費向上とCO₂排出量の削減に寄与しています。

[※]車両に搭載されている多目的ディスプレイで車両1台ごとの位置情報や燃費情報、エンジンなどの車両コンディション情報(油圧、水温など)をリアルタイムに収集し、その情報を分析して燃費や稼働状況のレポートとして提供するUDトラックス独自のサービス。

UDエクストラマイルチャレンジ

トラックドライバーの運転技術の向上に貢献

お客様にUDトラックスの製品とサービスを最大限に活用していただくことを目的に、当社が営業活動を展開する世界中のマーケットのトラックドライバーを対象とした運転技術競技会「UDエクストラマイルチャレンジ」を開催しています。

2017年は11月に本社において、「UDエクストラマイルチャレンジ2017」の最終戦を行いました。各地域の予

選を通過したドライバーや応援者を合わせて180名以上が来場しました。

2017年は、成熟マーケット向け大型トラック「クオン」と新興国向け大型トラック「クエスター」の両モデルを使用した初めての大会となりました。「クオン」カテゴリーではシンガポールチームが、「クエスター」カテゴリーでは南アフリカチームが優勝しました。

優勝チームからは、「UDエクストラマイルチャレンジは競うだけでなくトレーニングの要素もプログラムに含まれており、大変有意義でした」との声もありました。

UDトラックスではこの競技会を通じて、ドライバーの知識や技術の習得を支援し、さらには物流会社の事業運営や運行管理に役立つソリューションを提供することをめざしています。



お客様相談室

お客様の声を商品の改善や事業活動に反映

お客様からのお問い合わせやご意見、ご要望にフリーコールで対応する「お客様相談室」を設置しています。想定されるお問い合わせごとにマニュアルを整備し、スムーズな対応に努めています。2016年5月には、車両の不具合に関するお問い合わせに、より迅速かつ適切に対応するため、社内フローを見直しました。

また、お客様相談室に寄せられたお客様の声を関係部署と共有し、商品の改善や事業活動に反映しています。総受付件数は2016年は5,930件、2017年は4,691件でした。

ビジネスパートナーとの連携のために



サプライヤーや独立資本の販売会社は、私たちのビジネスにおいて欠かすことのできない大切なパートナーです。ボルボ・グループの方針やお客様満足度の視点を重視しながら、より良い関係の構築をめざしています。

サプライヤーに対する基本的な考え方

CSRの実行プロセスとして調達を実施

原材料や設備、日常業務に必要なサービスや消耗品の購入など、サプライヤーはUDトラックスの事業活動で重要な役割を果たしています。世界中のサプライヤーと適正な関係を構築するために、当社はボルボ・グループの調達方針に則った調達活動を推進しています。

ボルボ・グループでは、調達活動をCSRを実行するプロセスの一つとして位置づけており、サプライチェーンにおける倫理意識の向上とリスクの管理を通じて「責任ある調達」を実践し、持続可能な社会の実現に貢献することをめざしています。サプライヤー各社へは、各国の法規制や「ボルボ・グループ行動規範」に含まれたルールの遵守、国連グローバル・コンパクトなどの国際的な規範の尊重、さらには環境負荷低減の観点からISO14001もしくはそれと同等の第三者機関による認証の取得をお願いしています。

また、すべての一次サプライヤーに同レベルの取り組みをお願いするとともに、二次、三次サプライヤーに対しても、一次サプライヤーを通じて調達方針を展開しています。

主な取り組み

サプライヤーを対象としたトレーニングの開発・実施

業界全体で持続可能性を強化

ボルボ・グループは、2017年、CSRヨーロッパ*が主導する“Drive Sustainability”に参加する世界的な自動車メーカー10社と協働で、持続可能性に対するサプライヤーの理解促進のためのトレーニングプログラムを開発しました。

この協働の目的は、自動車業界共通の取り組みを発展させ、すべての調達プロセスに持続可能性の要素を統合することによって、業界のサプライチェーン全体の持続可能性を強化することにあります。これまでにインド、イタリア、タイ、ハンガリー、中国、スペイン、メキシコのサプライヤーを対象にトレーニングを実施しました。

* CSR概念の普及・啓発に取り組んでいる大手企業の連合体。本部プリュッセル。

ハイリスクカントリーへの対応

「持続可能な調達プログラム」による取り組みの推進

ボルボ・グループでは、2017年に「持続可能な調達プログラム」を刷新しました。このプログラムは、持続可能性に関わるリスク評価と、サプライヤーとの対話、透明性、信頼を構築するためのさまざまなツールで構成されており、例えば紛争鉱物など、人権と環境を著しく侵害するリスクの高い分野に重点的に取り組むことを促すものです。

ハイリスクカントリーにおけるサプライチェーンの影響と可能性を理解するための活動の一つとして、8月に調達部門のサステナビリティ責任者を含むグループの代表者が南アフリカのマリカナ鉱山を視察しました。プラチナの一次生産者に前回の訪問で課題となった労働条件に関する進捗を確認するとともに、南アフリカの政治、経済、社会状況について知見を深めました。

独立資本の販売会社に対する基本的な考え方

お客様満足度の向上をめざすパートナー

UDトラックスは、自社直系ディーラーのほかに、独立系ディーラー6社32拠点と連携して製品やサービスをお客様にお届けしています。各社の地域に根ざした事業活動を尊重しながら、お客様満足度の向上を共通の目標として、直系ディーラーと同じ研修やイベントの機会を提供し、より高い技術や最新知識の習得を支援しています。

主な取り組み

技術講習

技術向上の機会を提供

アフターマーケットに関わるスタッフの技能向上を積極的にサポートしています。技術講習会「アップタイム・カンファレンス2017」には、独立系ディーラーから40名が、また前回のUDトラックスの国際的なトレーニングイベント「現場チャレンジ2016」には9チーム36名が参加しました。

従業員の力を活かすために



グローバルな視点でビジネスを牽引する優秀な人材の雇用と育成、最適配置を実現するために、個人がもつ多様な強みを活かす人事制度の設計・運用や、フレキシブルな働き方を支援する取り組みを推進しています。

人材マネジメントに対する基本的な考え方

「グローバルでハイパフォーマンスな人材」を育成

UDトラックスは世界的な視野をもって事業を推進するために、「グローバルでハイパフォーマンス」という人材像を掲げています。そして、優秀な人材を積極的に採用するとともに、体系的な人材育成システム、公正・公平な評価システムの構築に注力しています。

これら制度の設計や運用にあたっては、「個人の尊重」「自発性」「多様性・クロスファンクショナル」「チームワーク」「情熱・責任感」「オープンな対話」といった価値観を重視するとともに、従業員意識調査の結果などを踏まえ、各種の取り組みがUDトラックスらしい企業文化の構築や、一人ひとりの能力を最大限に発揮できる働きやすい職場づくりにつながるよう努めています。

主な取り組み

ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)マネジメント

D&Iの理解と浸透を推進

ダイバーシティ※1は会社の業績向上に不可欠であるという考えのもと、従業員のさまざまな違いを尊重しています。また、人材の多様性を高め、個人が最大限に能力を発揮できる環境を築くことで、持続的な成長をめざしています。毎年実施している従業員意識調査では、主に性別、国籍、年齢でダイバーシティの度合いを、チームの一員として必要とされていると感じているかなどを問う質問でインクルージョン※2の浸透度を評価しています。

2017年は、とくに「ジェンダーダイバーシティ」への理解と浸透を目的に、「世界女性デー」を機に、さまざまな立場で働く女性従業員のインタビュー記事を社内ウェブサイトで配信しました。マネージャーやメカニック、外国籍管理職、育児休業から復職した従業員などの声をシリーズで紹介しました。

また、1月にはH&Mジャパン前CEOのクリスティーン・エ

ドマン氏を迎え、リーダーをめざす男女従業員に対してご自身の経験を語っていただく講演会を開催しました。

さらに、D&Iの啓発を目的に2014年から始まった「D&Iウィーク」も定着した活動として継続しており、従業員が企画に参加して、「D&Iの推進によるイノベーションの実現」などをテーマにさまざまなイベントを実施しました。



D&Iウィーク

※1 性別、国籍、人種、年齢、性的指向、宗教、政治に対する信条、社会経済的地位、身体能力など、異なる背景や視点をもつ人々のこと。

※2 自身の存在を尊重され、評価されていると感じること。また、周囲からの支援と関与を感じること。

人材採用・登用

個人の能力・企業戦略を踏まえた 人材採用と女性従業員の活躍を推進

個々人の関心や志向、能力と、企業としての中長期戦略を踏まえて採用活動を実施しています。2017年度は、103名の新卒者、147名のキャリア保有者を採用しました。

また、女性従業員の活躍推進にも力を入れており、現在49名の女性管理職がさまざまな部署で活躍しています。さらに、従業員に公平に機会を提供するため、すべてのオープンポジションは、原則、社内公募制度の応募者から登用しています。

従業員数(2017年12月末日現在)

性別	従業員数	比率
女性	422名	7.3%
男性	5,367名	92.7%
合計	5,789名	100.0%

国籍数(2017年) : 26カ国

アイルランド、アメリカ、インド、インドネシア、ウルグアイ、オーストラリア、カナダ、韓国、スイス、スウェーデン、スリランカ、タイ、中国、ドイツ、トルコ、日本、ネパール、フィリピン、ブラジル、フランス、ベトナム、ベルギー、マレーシア、南アフリカ、メキシコ

人材育成

能力開発を支援する環境づくりに注力

現在の業務だけでなく、将来重要となる知識や能力の開

発・向上にも重点的に取り組んでいます。また、2017年には「人材開発推進委員会」を設置し、具体的な検討を重ねています。

その一環として、10月に新しい研修管理システムを導入しました。これは、会社が提供するさまざまな研修プログラムを一つのシステムに集約したもので、従業員は研修プログラムの検索や受講の申し込み、受講履歴の確認などを容易に行うことができます。

さらに、研修環境の改善も進め、12月には、本社隣地にトレーニングセンターを開所しました。講義専用の部屋のほかに、車両実習場2ベイ、ユニット実習場2部屋を備え、ディーラースタッフを対象にした新製品研修会やメカニクスの技術トレーニングにも対応しています。

評価・処遇

年間目標を設定して半年ごとに進捗を確認

全従業員が毎年、年間目標を設定し、半年ごとに上司と進捗などを確認しています。また、個人の目標達成度をベースに、チームや全社の目標達成度などを加味した報酬制度を整備しています。

従業員意識調査

対話によってスコアを向上

従業員に会社に対する理解を促し、経営参画意識を醸成するために、従業員意識調査を隔年で実施しています。またスコア向上のために、対話集会や「フィーカ※」の開催、イントラネットでのタイムリーな情報共有など、年間を通じてコミュニケーションの活性化に取り組んでいます。

※ スウェーデンでティーブレイクを利用して行われるカジュアルな対話。

ワークライフバランス

活用しやすい仕組みづくりに注力

従業員が仕事とプライベートを効率的に両立できるよう、各種制度やポリシーなどを整え、ワークライフバランスの充実を支援しています。

個別の働き方を支援する主な制度・ポリシーなど

- 育児休職制度
- 介護休職制度
- ワーク・フロム・ホーム制度
(随時または期限付きの在宅勤務)
- コアタイムを設けないフレックスタイム制度
- 職場での尊厳に関するポリシー(ハラスメント防止策)
- 定時退社促進活動

職場の安全と健康

安全な職場環境づくりと 従業員の健康増進に注力

従業員が健康で安心して働ける職場の実現のために、継続的な改善に取り組んでいます。

人車分離による安全の向上

本社・上尾工場では、2017年に従業員や通学児童の安全確保のため、敷地内および正門周辺車両通行ルートの整備を行い、人と車の導線を分離しました。

社内フィットネスルームの開設

従業員の健康増進の一環として、本社にフィットネスルームを開設しました。各種マシンのほか、ロッカーやシャワールームも備えているため、昼休みや業務の前後に気軽に利用することができます。

また、肩こりや腰痛の解消プログラムや、ヨガ教室などのイベントを開催し、利用促進を図っています。



フィットネスルーム

ストレスチェックテストの実施

メンタルヘルス不調の予防のために、従業員のストレスチェックテストを実施しています。結果によって、医師やカウンセラーとの面談を促しているほか、医師からの助言に基づき、業務内容の見直しなどを行っています。

社会の一員として



UDトラックスの事業は、お客様やビジネスパートナーだけでなく、多くの人々によって支えられています。企業市民としての責任を果たし、社会との信頼関係を築くことを目標に社会貢献活動に取り組んでいます。

社会貢献活動に対する基本的な考え方

自社の経営資源を社会に還元

UDトラックスのもつ専門性や人材、施設・設備、機能といった経営資源を活かして社会貢献活動に取り組んでいます。事業所を置く地域コミュニティや自動車関連業界など、さまざまなステークホルダーのニーズや課題に寄り添い、共に価値を生み出す活動を通じて、より良い関係を構築し、持続可能な社会の実現に寄与することをめざしています。

主な取り組み

小学生向け交通安全教室

大型トラックで安全行動について学ぶ機会を提供

UDトラックスの本社がある埼玉県は、営業用トラックによる死亡事故件数において、継続的にワースト上位で推移しています*。トラックメーカーの社会的責任の一つとして、交通事故の防止に貢献することを目的に、2016年より、上尾市内の小学生を対象とした交通安全教室を実施しています。このプログラムは、実際の大型トラックを使用して死角や内輪差を体験しながら、安全行動について学んでもらうもので、2016年、2017年の2年間で約790名の児童に参加してもらうことができました。また、のべ約90名の従業員がスタッフとして運営に携わりました。

後日、小学生たちからお礼のメッセージカードが届いたり、引率の先生へのアンケートでは高評価をいただいたりと、従業員にとってもやりがいのある活動となっています。将来的には実施回数を増やすなど、規模の拡大を計画しています。

また、全国のカスタマーセンターでも地域の子どもたちを対象にした交通安全教室を開催しています。



* 公益社団法人全日本トラック協会の統計データより。対象は、営業用トラックのうち軽自動車を除く。

インターネット体験会

高齢者の情報アクセスの拡大に貢献

社会の高齢化が進む一方で、インターネットによる情報量はますます増えています。ITツールに不慣れなシニア世代の方のQOL(生活の質)の向上を目標に、2016年よりインターネット体験会を本社会議室を使用して開催しています。毎回、上尾市内在住の60歳以上でパソコン初心者の方20名を定員に、パソコンの基礎知識から日常生活に役立つ路線検索などを、講義と実習で学んでいただいています。

このプログラムはIT部門の従業員が中心となって実施しており、テキストを手づくりしたり、事前にリハーサルを行ったりして、よりわかりやすい運営に努めています。また、受講者2名~3名ごとに1名の従業員が付き一人ひとりの理解状況を見守りながらサポートしており、受講者からは「大変わかりやすく教えてもらえた」「マンツーマンの指導がとても良かった」「すぐに聞くことができて安心だった」などの声をいただいています。



学校との連携強化

将来の自動車業界を支える人材の育成を支援

自動車の保守・整備に従事する自動車整備士は、安全な車社会の維持と物流の安定稼働に重要な役割を担っていますが、近年の少子化や若者の車離れなどでその数が減少し、自動車業界のみならず社会の課題として顕在化しています。UDトラックスでは、各地の自動車整備専門学校や工業高校と連携し、優秀な人材の育成を支援しています。

エンジン寄贈

自動車整備士などを養成する埼玉自動車大学校からは、これまでUDトラックスにも卒業生が入社し、支社やカスタマーセンターで活躍しています。近年、同校では大型車のカリキュラムにも力を入れ、車両や実習場の設備の充実に取り組んでいることから、2017年10月に普通型トラック(積載量8トン

クラス)に搭載しているエンジンを寄贈し、大型車の教材として活用していただいています。

技術研修会

自動車整備士をめざす若い世代に対してトラックの魅力を伝えながら、より実践的な知識の習得をサポートしています。

東北支社では、2011年から自動車整備専門学校の学生や教員を対象に、トラックの新技术に関する研修会やトラック整備工場の見学会を実施しています。2017年5月には、前年に工場をリニューアルした仙台カスタマーセンターに、花壇自動車大学の学生289名や教員を4日間に分けて迎え、最新の整備・部品搬出設備を備えた新工場の見学会と、大型トラック「クオン」の構造についての研修会を開催しました。

同校の授業は乗用車が中心で、多くの学生にとってトラックやその部品に触れることは初めての体験でした。その大きさに驚きながらも、電子制御された最新大型トラックのエンジンやトランスミッションの構造や、整理整頓された作業環境や自動リフトなどの最新設備によって維持されている工場の生産効率を知り、トラックやトラック整備へのイメージを新たにしました。学生からは「整理整頓が行き届き明るい工場に驚いた」「想像していた大型車整備工場とは全く違っていた」などの感想が寄せられました。

他の地域でも自動車整備専門学校での出張授業や工業高校の生徒を対象としたインターンシップを実施し、トラック整備の知識習得の機会を提供しています。このような活動は全国で展開しており、今後も積極的に取り組んでいきます。



上智大学との産学連携プログラム

グローバル人材の育成に貢献

ボルボグループは、世界で活躍できる人材の育成のために、学生に対してさまざまな学びの機会を提供しています。

その一環として、スウェーデンをはじめ、フランス、アメリカ、中国、日本の世界5カ国11の大学と提携し、「アカデミックパートナープログラム」を実施しています。

日本では、2014年に上智大学と3年間のパートナーシップ契約を結び、これまでに4週間のインターンシップや、学生が発案した研究プロジェクトへの奨学金支援、UDトラックスの従業員が専門分野の講師を受けもつ「グローバルビジネス」講座などを実施しました。

当社の講義は、学生を対象に行われた2017年の全学共通科目の授業アンケートの集計結果に基づく同大グッドプラクティス選考委員会での審査により、対象252科目のなかからベスト4科目の一つに選出されました。また、これまでの取り組みが評価され、2017年4月にパートナーシップ契約を3年間更新しました。

上尾シティマラソン・ハーフマラソン

地元企業として大会の成功を応援

毎年秋に開催される「上尾シティマラソン・上尾シティハーフマラソン」は、上尾市を代表するイベントとして長年市民から親しまれ、毎回8,000名を超えるランナーが参加しています。

UDトラックスは、地元企業として2013年からこのマラソン大会に協賛し、その成功を応援しています。2017年11月の第30回記念大会では、例年実施している子どもたちへのオリジナルネックウォーマー1,600個のプレゼントに加えて、大型トラック「クオン」の玩具やオリジナルキャンディーも配布しました。また、約100名の従業員もランナーとして参加しました。



環境経営の推進に向けて



UDトラックスは、ボルボ・グループのポリシーに沿った環境プログラムや環境管理・保全に関する中長期計画に基づき、製品の環境性能の向上と事業活動に伴う環境負荷の低減を推進し、持続可能な社会の実現をめざしています。

環境マネジメント方針

4つのプログラムで 持続可能な社会の実現に貢献

ボルボ・グループは「環境方針」を定め、長年にわたり環境対策に取り組んできました。

UDトラックスでもこの方針に則り、「全体的な視点」「継続的な改善」「技術開発」「資源の利用効率向上」の4つからなる環境プログラムを推進し、持続可能な社会の実現をめざしています。

環境プログラム

全体的な視点

製品ライフサイクル全体を考慮し、製品・業務・サービスが環境に及ぼす影響を低減する取り組み

継続的な改善

従業員が主体となって、それぞれの業務のなかで必然的・継続的に推進する取り組み

技術開発

お客様や社会からの要請・期待を上回る、自発的・先駆的な研究開発

資源の利用効率向上

天然資源の消費削減や廃棄物の発生抑制につながる取り組み

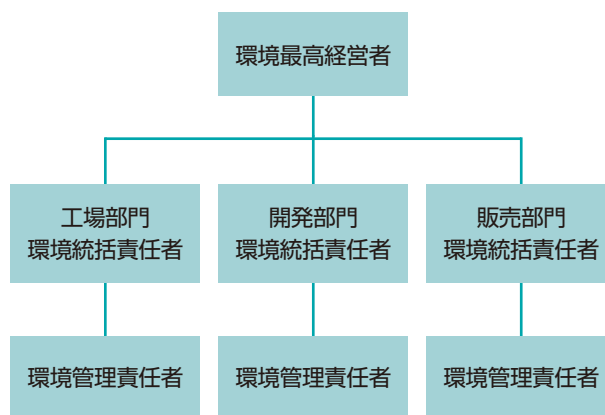
環境マネジメント体制

「環境マネジメント組織」で 全社の環境計画を策定

UDトラックスは、経営会議メンバーの代表者を環境最高経営者とし、各部門の環境統括責任者などで構成する「環境マネジメント組織」を設置しています。この組織は全社の環境管理・保全に関する中長期計画の策定や重要事項の審議・承認などの機能を担っています。

各環境統括責任者の中には、環境管理責任者と管理・実行組織を設置し、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001や社内の環境計画に基づいた環境活動を推進しています。

環境マネジメント体制



ISO14001 認証の取得

会社全体で 環境マネジメントシステムを運用

UDトラックスは、ISO14001の認証を取得しています。1998年度に上尾工場が取得後、2017年度までに各工場・関連会社において順次取得を完了しました。

現在は、全社で環境マネジメントシステムを運用することで、環境活動計画で定めた目的・目標の達成をめざしています。



ISO14001認証

環境マネジメントシステムに対する内部監査／外部審査

運用状況や有効性を定期的に確認

環境マネジメントシステムが適切に機能していることをチェックするために、社内規定に基づく内部監査を毎年定期的に行っています。監査では、内部監査資格をもつ委員で構成する監査チームが、環境マネジメントシステムの運用状況、社内基準、環境関連法規制の遵守状況などを確認・評価しています。

また、外部機関による審査も毎年実施しています。2018年5月には、ISO14001:2015年改訂規格への移行のための審査を受け、8月末に移行を完了しました。

事業活動に伴う環境影響

製品ライフサイクルの全段階で 資源の有効利用と環境負荷低減を推進

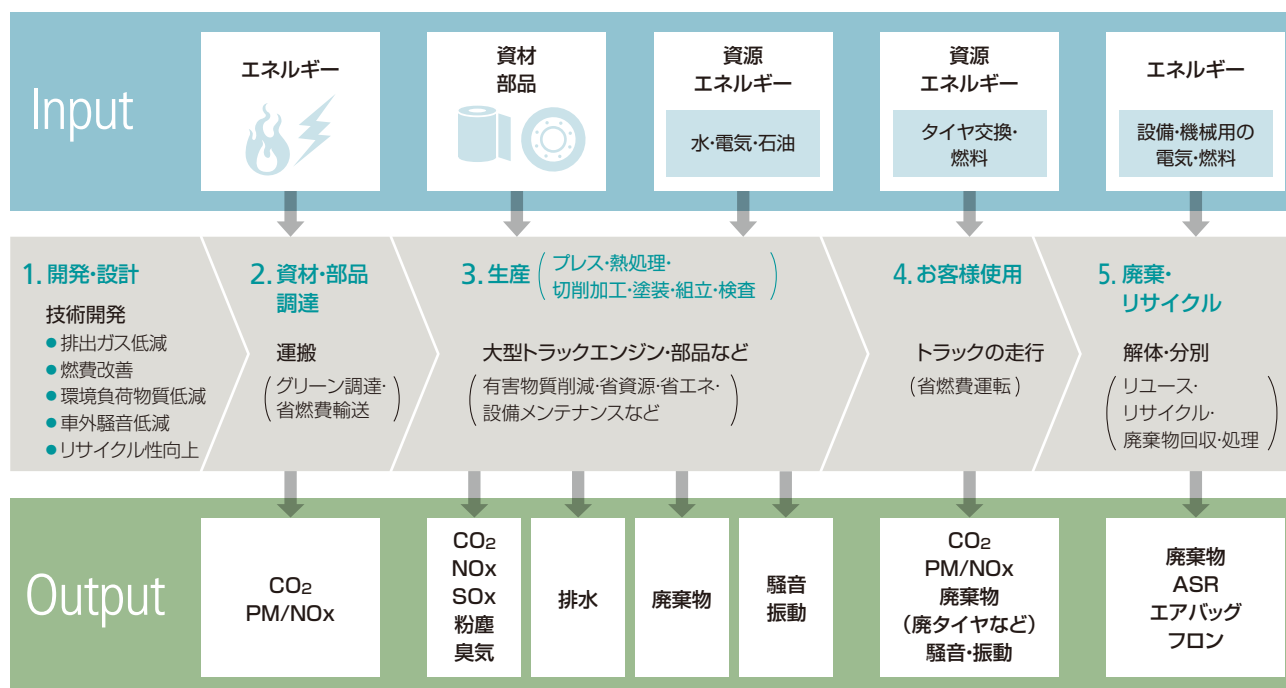
UDトラックは、開発・設計から廃棄・リサイクルまで製品ライフサイクルのすべての段階で環境負荷分析を行い、環境に配慮した製品を提供するとともに、資源の有効利用と環境負荷の低減に取り組んでいます。

製品環境性能の向上

環境性能の向上につながる 技術の開発に注力

UDトラックは、燃料消費を抑制する技術や排出ガスをクリーン化する技術の開発、環境負荷物質管理の徹底などを通じて、総合的な環境保護に努めています。

マテリアルフロー



トラックのライフサイクルでの環境負荷は、ほとんどが使用中に発生するCO₂と排出ガス（PM・NO_x）です。

省エネルギー・地球温暖化防止

燃料消費を抑制する技術を開発

トラックの燃料消費は、事業者にとって経営上の大きな負担となるだけでなく、CO₂排出の主な要因ともなります。

そこで、UDトラックスでは燃料消費の抑制を環境活動における最大の課題と位置づけ、長年にわたって着実に改善を図ってきました。国内では各メーカーが2015(平成27)年度に達成すべき「平成27年度重量車燃費基準」が施行され、車両重量などのカテゴリーごとに目標燃費値が設定されています。2017年度販売実績において、目標燃費を達成した車両台数は販売台数の98%を超え、平均燃費値においては2012年以降企業目標を達成しています。

また、車両の燃費改善とともに、トラックドライバーに省燃費運転につながる知識と技術をレクチャーする「エコドライブ講習会」を全国各地で継続的に実施しています。

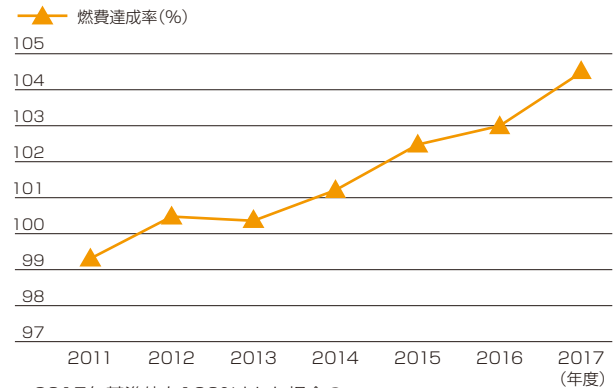
燃費改善技術

エンジンやトランスミッションなど駆動系の性能向上や、走行状態のきめ細かな制御など、燃費を改善するさまざまな先進技術を積極的に搭載することにより、大型トラック「クオン」の主要車型の9割以上において「平成27年度重量車燃費基準」の目標値に対して105%以上を達成しました。

大型トラック「クオン」に採用している主な技術

車両	<ul style="list-style-type: none">● 燃費コーチ(省燃費運転をガイド)● フォアトラック(道路勾配を記憶し先読み制御)● 空気抵抗の低減(エアダム一体型フロントバンパー、新デザインの導風板など)
エンジン	<ul style="list-style-type: none">● 燃料噴射システムの変更● 燃焼室(ピストン)の形状変更● 吸気系の形状変更● 可変速のウォーターポンプの採用
駆動系	<ul style="list-style-type: none">● ESCOTロール(惰力走行時の速度低下制御)● アクセラレーションリミッター(急激なアクセル操作の抑制)● ソフトクルーズ(加速制御)

UDトラックス燃費改善状況



※ 2015年基準値を100%とした場合の
中型・大型トラック総販売台数による加重調和平均。

化学物質の管理

製品に含まれる化学物質の管理を徹底

化学物質の製造・輸入・管理、環境配慮設計、リサイクルなどに関する法規制や産業界の自主基準の遵守を前提に、自動車業界の統一化学物質リスト(GADSL)に基づき、製品に含有される化学物質の管理に努めています。

化学物質管理の取り組み

開発・設計段階

- 各工程でサプライヤーを含めた化学物質の使用状況を確認
- 必要に応じてIMDS^{*1}へ情報を登録

生産段階

- PRTR制度^{*2}に基づき毎年届出・報告を実施
- 社内基準として運用し有害物質代替活動を推進
- 法律の改正に対しても適切に対応

※1 世界各国の自動車メーカーが環境保全を目的に共同で運営している材料データベース。

※2 特定化学物質の環境への排出量の把握等および管理の改善の促進に関する法律。

事業活動に伴う環境負荷の低減

省エネルギー・地球温暖化防止や 廃棄物削減に注力

UDトラックスは、省エネルギーアイテムの発掘や優良活動の水平展開などによるCO₂排出量の削減、ディーラーと一体で取り組む廃棄物削減をはじめ、本社・上尾工場緑地の拡大、環境リスクの低減などを積極的に進めています。

省エネルギー・地球温暖化防止

全社でCO₂排出量の削減活動を推進

ボルボグループは、2011年にWWFの「クライメートセイバーズプログラム[※]」に自動車メーカーとして初めて参加し、グループの生産工場から排出するCO₂量を2014年までに2008年比12%削減する目標を掲げていましたが、2013年に目標を大きく上回る20%の削減を達成しました。

この結果を受け2015年からは、2020年までに2013年比で8%削減する目標を新たに掲げ活動を加速させています。UDトラックスもこの削減目標達成に向け、各部門の代表者で構成する「省エネルギー推進会議」などにおいて、具体的な活動項目やアクションプランを検討しています。

またUDトラックスでは、「2013年度のCO₂排出量については1990年度比39%の削減」という目標を掲げ、その成果として当初目標を大きく上回る60.7%の削減に成功しました。現在は、生産量の増加に伴う排出量を含め、2020年目標の達成に向けて削減を進めています。

※ WWFと企業のパートナーシップで温室効果ガス削減を進めるプログラム。



廃棄物削減

製品廃棄時の環境負荷を低減

製品ライフサイクルで最も多く廃棄物が発生するのは、ディーラーでの製品廃棄時です。そのためUDトラックスでは廃棄物管理体制を構築し、2014年から廃棄物分別管理

に関する社内処理基準を全ディーラー拠点に導入しています。各拠点では、これに従って専用の設備を設置し、廃棄物を細かく分別しています。また、ディーラーへ発送するサービスパーツの梱包容器のリターナブル化を進め、各ディーラー拠点に再利用を促しています。

開発段階においては、3分割バンパーや、レンズとLEDユニットが単体交換可能な易解体性ヘッドランプ、リサイクル材使用フェンダーなど、解体のしやすさや資源の有効利用を考慮した設計を行っています。

生産段階では、廃棄物最終処分量の削減を目標に、廃棄物の発生抑制とリサイクルに取り組んでいます。2017年度においては、廃棄物最終処分量を1990年度比で99.7%削減。また、リサイクル率も全社で99%以上(ゼロエミッション)を維持しています。

UDトラックスでは、こうした廃棄物管理体制の強化を目的に、2015年4月から廃棄物処理の専門会社とコンサルタント契約を締結しています。信頼性の高い処理会社の選定や行政への届出、帳票(マニフェスト)管理、処分量集計など、廃棄物管理に関わるコンプライアンスの徹底を図っています。

緑地の拡大

本社敷地内の建物跡地を緑地に再生

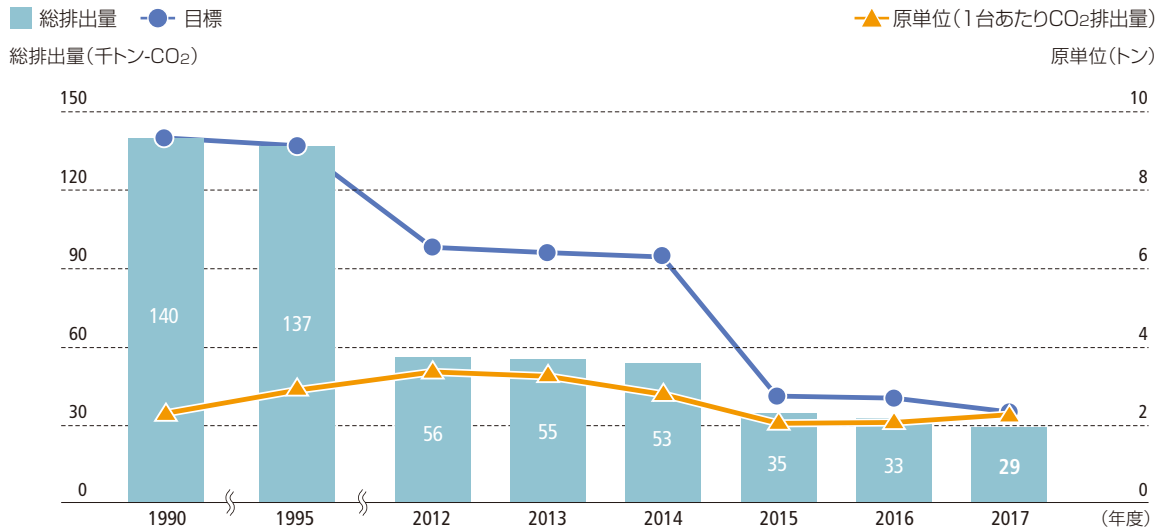
本社・上尾工場において、2016年から継続してきた整備事業が完了し、緑地面積が拡大しました。これは、2015年に本社ビルが竣工したのに伴い、老朽化した建物を解体し、その跡地を緑地化したものです。

芝生広場として再生した一角にはベンチを設置し、従業員の休憩やコミュニケーションの場としても活用しています。

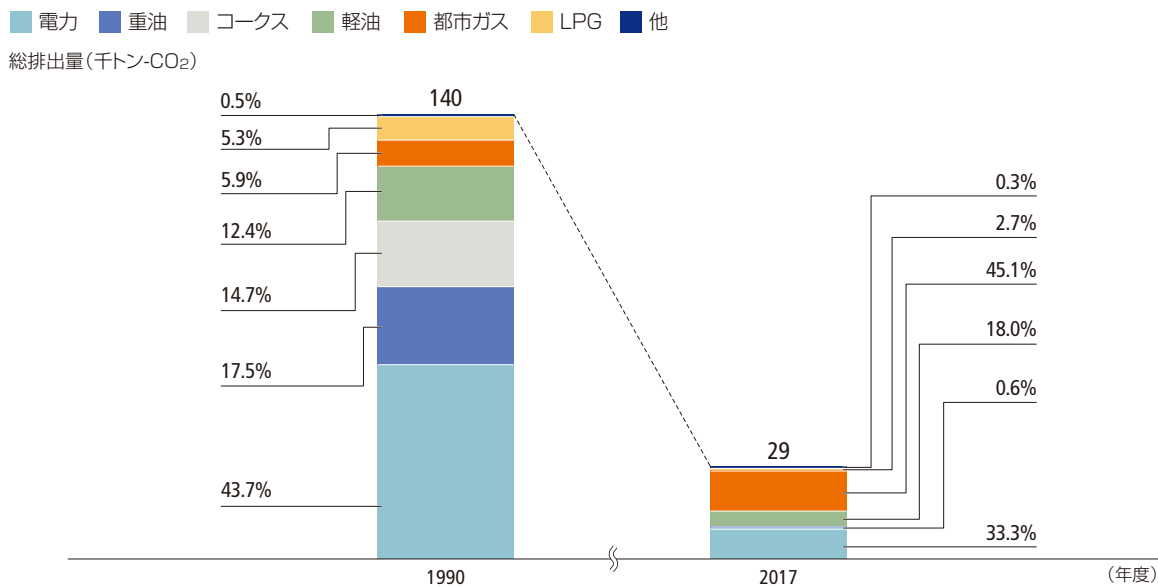


エネルギー／CO₂関連データ (上尾工場、羽生工場、群馬部品センター)

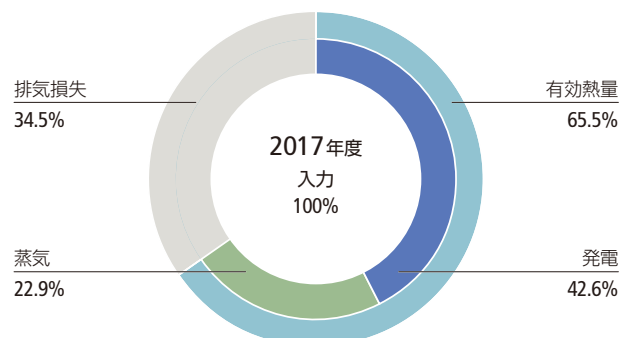
CO₂総排出量



エネルギー別CO₂排出量

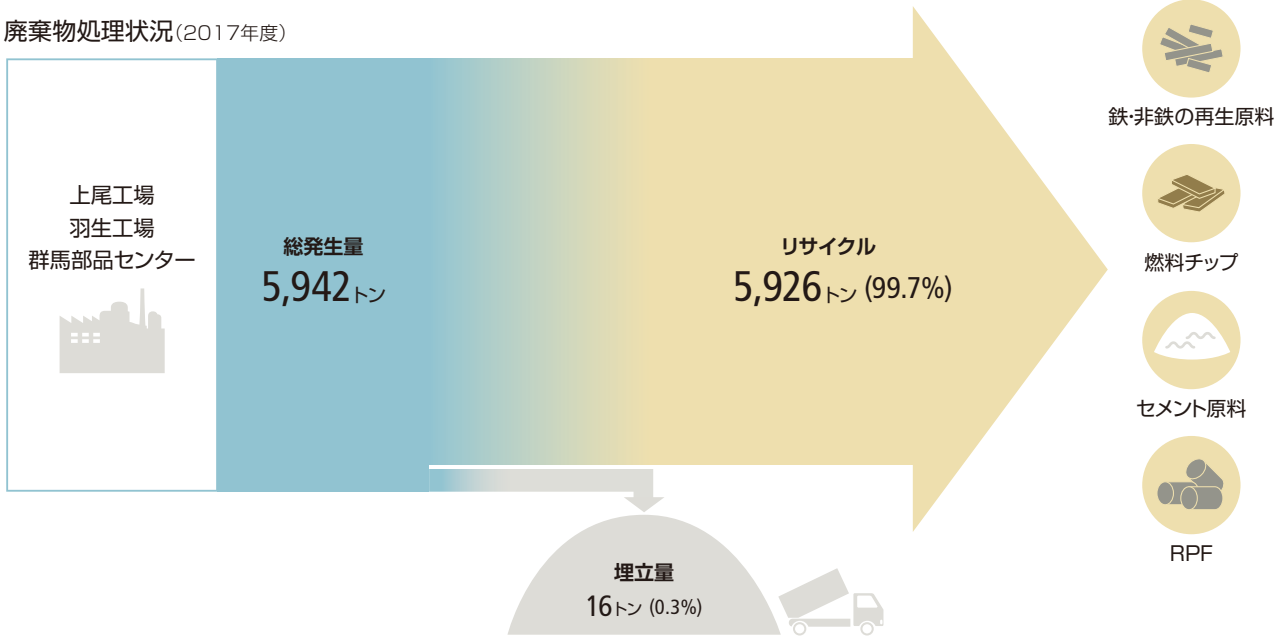


大型天然ガスコジェネレーションの熱収支

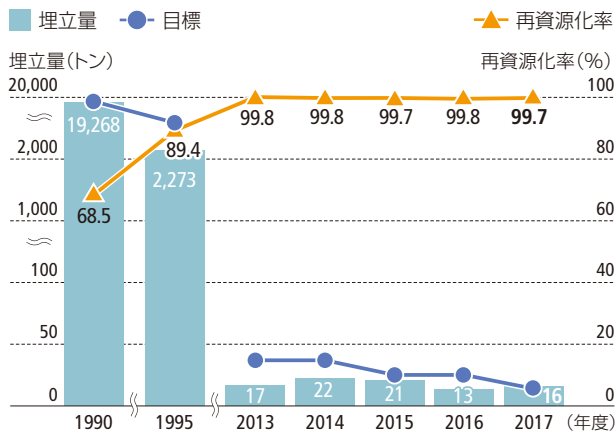


資源関連データ (上尾工場、羽生工場、群馬部品センター)

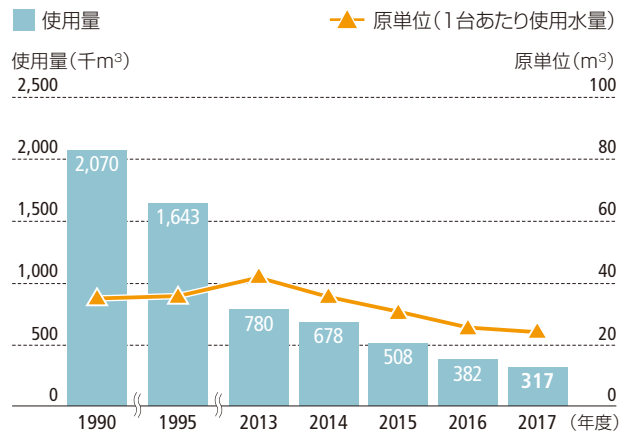
廃棄物処理状況(2017年度)



廃棄物最終処分量(埋立量)／再資源化率



使用水量



※自工会廃棄物分科会の取り組みに準拠し、2004年度より目標値を見直しています。

PRTRデータ

上尾工場(2017年度)

単位:kg/年

区分	政令番号	化学物質名	取扱量	排出量			移動量 廃棄物	除去 処理量	リサイクル	消費量 (製品)
				大気	水域	土壌				
第一種指定 化学物質	53	エチルベンゼン	20,462	9,027	0	0	0	2,260	9,072	103
	80	キシレン	37,147	12,967	0	0	0	2,462	21,167	551
	296	1,2,4-トリメチルベンゼン	2,526	1,241	0	0	0	589	0	696
	297	1,3,5-トリメチルベンゼン	4,545	515	0	0	0	36	3,864	131
	300	トルエン	7,843	5,354	0	0	0	1,456	119	914

環境施設の2017年度環境測定データ

(環境データ測定期間：2017年4月～2018年3月)

上尾工場

水質	測定項目	単位	規制値	最大	最小	平均
BOD:生物化学的酸素要求量 COD:化学的酸素要求量 SS:懸濁物質 ND:定量下限以下 規制値の()内は日間平均	排水量	m ³ /日	—	9,532	0	1,015
	pH	—	5.8～8.6	7.8	6.7	7.3
	BOD	mg/L	25 (20)	4.1	1.2	2.2
	COD	mg/L	160 (120)	9.0	3.3	6.9
	SS	mg/L	60 (50)	ND	ND	ND
	N-Hex(鉱油)	mg/L	5	ND	ND	ND
	リン	mg/L	8	0.5	ND	0.2
	窒素	mg/L	60	6.3	1.5	3.0
	亜鉛	mg/L	2	ND	ND	ND
フッ素および化合物	mg/L	8	ND	ND	ND	

大気	施設名	測定項目	単位	規制値	最大	最小	平均
NOx:窒素酸化物	温水ボイラー	NOx	ppm	150	58	51	55
		ばいじん	g/m ³ N	0.1	ND	ND	ND
	コージェネ(ガス機関)	NOx	ppm	200	140	89	115
	乾燥炉1	NOx	ppm	230	19	6	6
		ばいじん	g/m ³ N	0.2	0.002	ND	0.001

羽生工場

水質	測定項目	単位	規制値	最大	最小	平均
BOD:生物化学的酸素要求量 COD:化学的酸素要求量 SS:懸濁物質 ND:定量下限以下 規制値の()内は日間平均	排水量	m ³ /日	—	65	0	8
	pH	—	5.8～8.6	7.3	7.1	7.1
	BOD	mg/L	25 (20)	3.9	1.5	2.9
	COD	mg/L	160 (120)	2.1	1.2	1.5
	SS	mg/L	60 (50)	ND	ND	ND
	N-Hex(鉱油)	mg/L	5	ND	ND	ND
	窒素	mg/L	60	20.0	3.5	12.9
	亜鉛	mg/L	2	0.10	ND	ND

大気	施設名	測定項目	単位	規制値	最大	最小	平均
NOx:窒素酸化物 SOx:硫黄酸化物	ボイラー重油(1.2トン)	NOx	ppm	180	76	68	72
		SOx	m ³ N/h	0.493	ND	ND	ND
		ばいじん	g/m ³ N	0.3	0.007	0.006	0.007
	冷水水機	NOx	ppm	180	74	74	74
		SOx	m ³ N/h	0.531	0.002	0.002	0.002
		ばいじん	g/m ³ N	0.3	0.007	0.007	0.007

群馬部品センター

水質	測定項目	単位	規制値	最大	最小	平均
BOD:生物化学的酸素要求量 SS:懸濁物質 ND:定量下限以下	排水量	m ³ /日	—	11	0	7
	pH	—	5.8~8.6	7.5	6.4	6.7
	BOD	mg/L	80	7.7	1.2	3.6
	SS	mg/L	20	8.0	1.0	3.2
	N-Hex(鉱油)	mg/L	1	ND	ND	ND

大気	施設名	測定項目	単位	規制値	最大	最小	平均
NOx:窒素酸化物	ボイラー重油 No.1,2,3	NOx	ppm	180	74	62	68
		ばいじん	g/m ³ N	0.2	0.002	0.001	0.002

ISO14001 認証取得状況

1998年度	上尾工場
2004年度	鴻巣工場 *2015年1月グローバル・コンポーネントテクノロジー(株)に譲渡
2004年度	羽生工場 *2016年3月ユニキャリア(株)に譲渡
2005年度	株式会社DRD *2013年6月テンブスタッフ(株)に譲渡
2005年度	株式会社テクサス *2013年7月UDトラックス(株)に併合
2006年度	株式会社エヌテック *2015年3月(株)木原製作所に譲渡
2008年度	株式会社ジャパンビークル *2011年7月UDトラックス(株)に併合
2009年度	株式会社ボルボ・ロジスティクス・コーポレーション・ジャパン *2014年4月UDトラックス(株)に併合

PCB保管状況 (2017年度)

	上尾工場
リアクトル	902kg
放電線輪	58kg
コンデンサ	8,628kg
安定器	20,286kg
トランス	74kg
遮断器	102kg
汚染物(ウエス等)	1,115kg
合計	31,165kg

※「トランス」は、トランス本体の筐体重量を含めています。

ボルボ・グループについて

UDトラックスが所属するボルボ・グループは、スウェーデン・ヨーテボリを本拠とし、トラックやバス、建設機械、船舶・産業用エンジンの製造や金融サービスなど、さまざまなソリューションを提供するグローバルカンパニーです。世界18カ国に生産拠点を置き、約100,000名の従業員が、190以上のマーケットで事業を推進しています。

事業分野



路上

家庭への食品輸送や目的地への移動、道路の整備など、さまざまな用途で活躍しています。また、生産に必要な部材の輸送や工場の安定稼働の一翼を担っています。



建設現場や鉱山

ボルボ・グループのエンジンや機械、車両は、建設現場や鉱山、森林など、さまざまな現場で使われています。



市街地

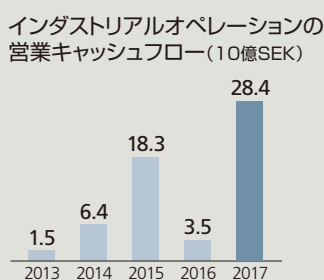
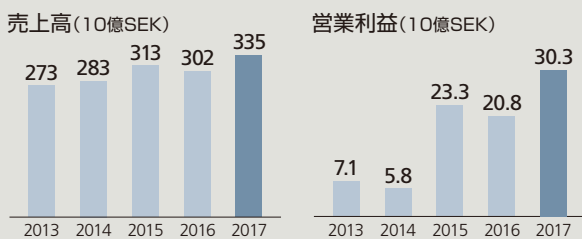
通勤手段や荷物の配達、ごみの回収など、ボルボ・グループの製品は日常生活の一部です。電動化を中心に未来の公共交通ソリューションの開発も進めています。



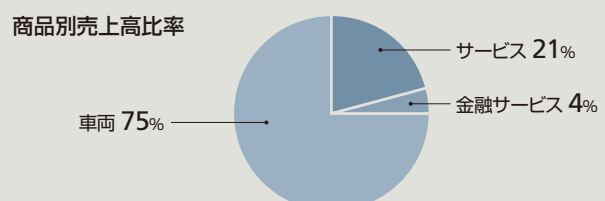
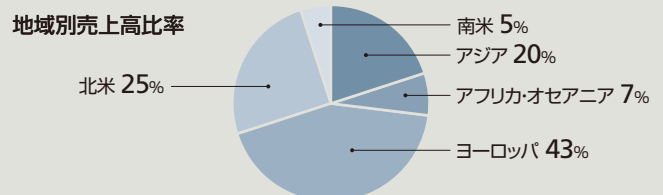
海上

船舶を使った業務やレジャーから救命救急の現場まで、海上における多様な活動を支援しています。

2017年度の主な業績結果



SEK:スウェーデン・クローナ



企業戦略

2016年、ボルボ・グループは、グループの新しい「ミッション」、それを果たすための「ビジョン」、ビジョンを実現するための目標となる「アスピレーション」、そして企業文化を醸成するための「バリュー」を発表しました。これらをボルボ・グループがめざすべき方向性としてすべての従業員と共有し、あらゆる事業活動に反映しながら、さらなるビジネスの発展と持続可能な社会の実現に取り組んでいます。

また2017年には、全従業員が履行すべき基本原則や行動を定めた「行動規範」を刷新し、すべての事業活動において求められる倫理感とコンプライアンスを明確に示しました。



- 輸送ソリューションを通じて豊かな社会づくりに貢献する
- 輸送ソリューションを提供する企業として世界一の評価を受け、成功を収める
- すべてのブランドのセグメントで顧客満足度トップを達成する
- 業界の中で働きたい企業ナンバーワンとなる
- 業界トップの収益性を確保する
- カスタマーサクセス (お客様の成功)
- トラスト (信頼)
- パッション (情熱)
- チェンジ (変革)
- パフォーマンス (成果)

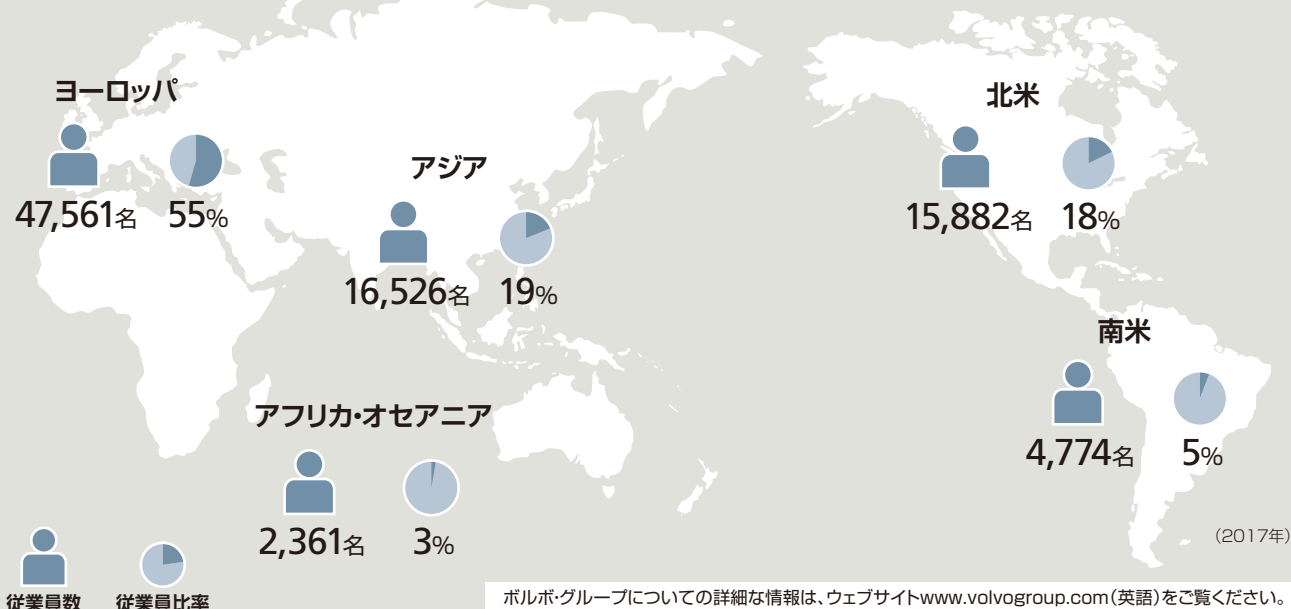
ブランド

ボルボ・グループは、傘下に、ボルボ(トラック、建設機械、バス)、ボルボ・ペンタ、UDトラックス、テレックス・トラック、ルノー・トラック、プレヴォ、ノババス、そしてマック・トラックといった複数のブランドを展開しています。また、SDLG、アイシャー、東風商用車会社とパートナーを組み合併事業を行っています。

製品とサービスをさまざまなブランドで提供することによって、成熟市場、新興市場を問わず、お客様の多様なニーズに応えています。



地域別従業員数



UDトラックス株式会社

〒362-8523 埼玉県上尾市大字菅丁目1番地
udtrucks.com/japan